

セミナーなどの企画運営者を育てる！

気候変動教育～ ESD学び合いの場づくり企画ワークショップ 【やり方と解説】

「ESD学び合いの場づくりワークブック」
を使って…



環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター
学び合いプロジェクト有識者検討会（2025年3月）

ESD学び合いの場づくり企画ワークショップ

● 企画運営者のESDスキルアップを図ります

地球温暖化防止活動などの普及啓発や出前授業などで、気候変動教育としての機会を充実させるため、様々なESDとしての学び合いの場の企画運営スキルの向上を目指す。

ワークショップのミッション：気候変動教育の場の企画書を作る

ESD学び合いの場づくり 企画ワークシート(Vr.2)

必要な「人」「もの」「こと」「金」を想定しながら、学び合い企画のアイデアをメモしてみよう。

テーマ	学びの目標
	想定される参加者
学び合い形式 <input type="checkbox"/> 講演 <input type="checkbox"/> 発表会 <input type="checkbox"/> パネルディスカッション <input type="checkbox"/> グループディスカッション <input type="checkbox"/> ゲーム <input type="checkbox"/> 試食 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 個人ワーク <input type="checkbox"/> 視察・観察会 <input type="checkbox"/> 屋外ワーク <input type="checkbox"/> 展示・ブース <input type="checkbox"/> その他()	
●企画内容	●必要なもの、考慮すべきこと
日時・場所	もの) こと) 金) など
プログラム	人) こと) もの) 金) など
主催と協力者(共催・後援)	人) 金) など
人あつめ(参加者)	人) こと) 金) など

- ・最終的に左の用紙に記入したり付箋を貼ったりしてESDの場の企画書案を作成します。
- ・全部で120分程度の時間枠を想定しています。
- ・4～5人のグループいくつかで行うことを想定しています。
- ・左の用紙は個人で書き込めるA3程度でも良いですが、グループメンバーみんなで話し合えるように、できるだけ大きなものを使いましょう。
- ・中部地方ESD活動支援センターが作成した「ESD学び合いの場づくりワークブック」を教材として使います。

ワークショップのプログラム

時間配分の例

10分

【アイスブレイク】自己紹介とリーダー選び

グループでの作業を円滑に進めるためにお互いを知り、リーダーを選びます。

20分

【インプット】
ESDとしての「学び合いの場」づくりについて

ワークショップの目的と意義について説明します。企画運営者のESDスキルアップを図る重要性を理解してもらいます。

25分

【ディスカッション1】
SDGs学習も考慮したテーマの設定

グループごとに企画する「学び合いの場」のテーマをSDGsも考慮して決めます。普段からやりたいと思っているテーマがよいでしょう。

15分

【ディスカッション2】学び合いの場の形式検討

セミナーなのかワークショップなのか、どのように形式で「学び合いの場」を作るのか検討します

10分

<休憩>

必ず休憩を入れましょう

20分

【ワーク1】学び合いの場の企画づくり

グループごとに話合って実際の企画を考えていきます。その内容を用紙に貼ったり、記入します

10分

【ワーク2】企画内容のSDGsチェック

記入した企画がSDGsの学びに貢献するかをチェックします

20分

【ワーク3】企画のブラッシュアップ

考えた企画でいいかどうかを検討します。別人になりすますと忌憚のない議論ができます。

10分

【プレゼン】議論した内容を発表

議論の内容を共有しましょう

【アイスブレイク】 自己紹介とリーダー選び

【アイスブレイク】ではグループでの作業を円滑に進めるためにお互いを知り、リーダーを選びます。

例えば民主的にリーダーを決めるために…

- ①各自1分間の自己紹介
- ②それぞれの人柄がわかったところでリーダーを各自心の中で決める
- ③全員目を閉じて心の内に決めたリーダーを指し示す
- ④合図とともに目を開けると指し示した人数の一番多い人がリーダー！
(同数の場合はじゃんけんで)

【インプット】 ESDとしての「学び合いの場」づくりについて

【インプット】ではワークショップの目的と意義について説明します。企画運営者のESDスキルアップを図る重要性を理解してもらいます。

例として・・・

「ESD学び合いの場づくりワークブック」とともに、以下の12枚のスライドを使ってESDの重要性と企画の着眼点について説明します

ESD学び合いの場づくりに役立つワークブック

気候変動教育・学び合いの場づくりのために 企画運営力を伸ばすための虎の巻

地域づくりは人づくりから始まります。そのとき大切なキーワードが「ESD」と「SDGs」。「なんか巷ではやっているSDGs。関係あるのかなあ。勉強会が必要かなあ。なんか教育現場でESDとも言っているなあ」—そんなとき、このワークブックはきっと役に立ちます。

ESDってなんだろう？

SDGsのための人づくりってなんだろう？

そんな基本的なことから、

何を目標にするんだ？

どんな分野があるんだ？

どんなやり方があるんだ？

どんな人を呼べばいいんだ？

実際に何をすればいい？

それで役に立つのか？

といった実践的なことまで、考えるヒントが満載です。



いろいろな場面で悩みはさまざまです。学びの目的は何でしょう？

企業でも

CSRの担当を社長から命じられたんだが、SDGsとかが流行らしい。何をすればいいのか。社長が喜ぶことだとすると、うちはこんなことをやっている素敵な会社なんだと周りに言いつつ、それとなく営業することか。

そういえば、経理が「電気代が高くなりすぎて将来が心配だ」とこぼしていたな……。

製造業総務部門勤務
榎本さん(45才、仮名)

学びの目的

SDGsから企業経営を見直し、地域への貢献のあり方を考える

福祉協議会でも

予算もないのに何をやってっていうの。だいたい生涯学習講座なんて誰も来ないわよ。

うちの施設を活かして言うけど、人が集まってこそでしょう。どうせなら意味のあることやりたいし……。

福祉協議会勤務
西野さん(29才、仮名)

学びの目的

「わがこと、まるごと、の地域づくり」を高い視点から理解する

自治会でも

最近会合への集まりが悪くて困ったもんだ。ごみの出し方のルールの問題もあるし、通学路の安全指導会の件もあるし、問題は山積みだというのに。昔はこの地域も住みやすかったものだが、将来どうなることか。なんか大学の先生とやらが勉強会をやりましようと言ったが、はて……。

農業・自治会役員
平田さん(72才、仮名)

学びの目的

立場や世代の違いを超えた地元への共感を育む

もちろん学校でも



持続可能な社会のための
「学びあいの場」が大切！

地球・地域づくりは人づくりから始まります

ESD Education for Sustainable Development

(持続可能な開発のための教育)

SDGs Sustainable Development Goals

(持続可能な開発の到達目標)

住み続けられるよりよい地球社会の目標がSDGs

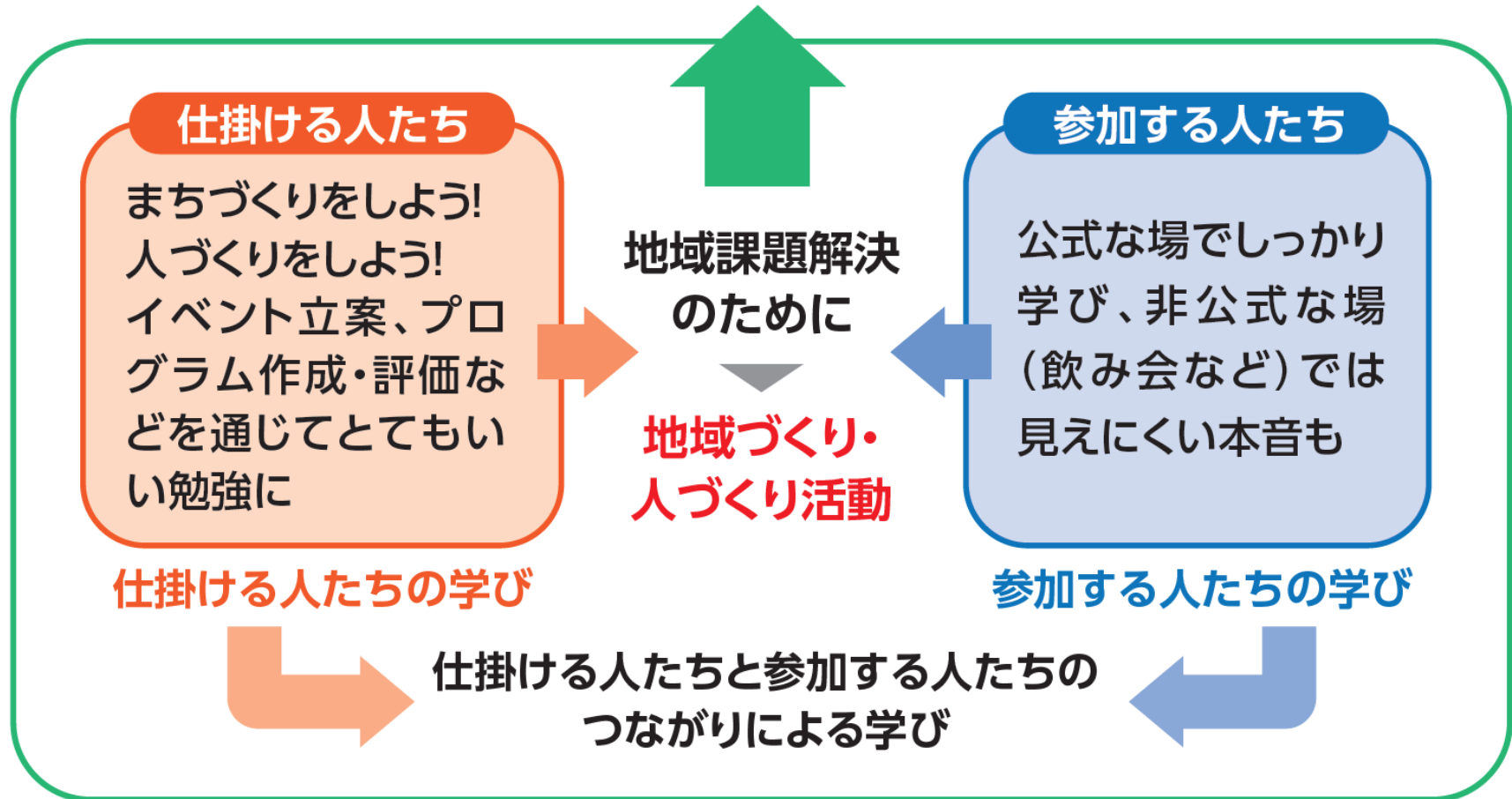
そのために持続可能な地域ローカルSDGsを目指す

そうした地球・地域社会を担う人づくりがESD



「学び合いの場」が必要 地域づくり（SDGs）は人づくり（ESD）

目指したい地域のビジョン、人のビジョン



地域づくりは人づくりから、すなわちSDGsはESDからです。そこでは地域づくり活動を仕掛ける人、参加する人、みんなが学び、学び合い、地域の課題解決に向けて「人」が磨かれていくことが大切です

「楽しい」がいちばん！企画の糸口を見つけよう！

座って退屈な話を聞くことにあなたは耐えられますか？人は「楽しい！」「おもしろい！」と思ったときに最も学びの力が高まります。

自分たちが楽しむ！

仕掛ける人たちが楽しい!と思うイベントを企画しましょう。そのためには参加者に「楽しい!」と思ってもらうことが何より大切です。楽しんで作り上げた「学び合いの場」で参加者に楽しんでもらえたら…絶対**「楽しい!」**



外に出てみる！

百聞は一見に如かず。学びの種は「まち」や「里山」、家の「近所」にもころがっています。草むしりやゴミ拾いにも新たな発見があります。たくさん歩いて、体を動かして、みんなとおしゃべりしたら…絶対**「楽しい!」**



話し合いから気づく！

受験勉強は一人だからつらいんです。あるテーマで他の人と話し合ったり一緒に何かを作ったりしたら、それだけで楽しいですよ。そしてある時、目から鱗が落ちることがある。話し合いから気づきが生まれる体験は…絶対**「楽しい!」**



ゲームで学びを遊ぶ！

イベントにゲームの要素を取り込むとテンションが上がります。大人も子どももゲームが大好き。スタンプラリー、クイズ、カードゲームなど、これらを通じて新たに知ったり、考えたり。遊びながら学べたら…絶対**「楽しい!」**



●最初に考えること●

学び合いの場づくりの目標は何ですか？
どんな人に参加してほしいですか？

企画を考える上で一番大切なのは、この二つです。予算や会場などの制約はありますが、イベントの目標と参加者像を明瞭にすることが重要です。
(上司への説明のためにも！)

学び合いの場の企画を具体化する

学びの目標と参加者像が決まったら、テーマやプログラムを考え、それに必要な人を見つけていきます。

テーマ

分野はどこからでも SDGsですべてはつながる

イベントの題材は何を取り扱っても構いません。現代社会の課題を扱えば持続可能性の問題を避けて通ることはできないからです。SDGsの17のゴールがすべての分野をカバーしていることからわかります。できれば具体的なテーマから掘り下げたり広範囲の分野と関連させたりすると興味広がります。



人さがし

専門家を頼めますか？

研究者などの学識経験者をお願いする場合は紹介者を通じて行うのが一般的ですが、最近は大学などで学外連携拠点を設置しているケースもあります。また環境省中部地方環境事務所や環境パートナーシップオフィスなど公的機関に相談することもできます。いずれの場合も、日時や場所、何を話してほしいか、費用、条件などをできるだけ明確にして探すことが重要です。



プログラム

ストーリーで参加者をひきつける

いくつかの話題提供によるインプット、野外活動、ワークショップやディスカッションなどから構成する場合、全体の流れが参加者に見えるようなストーリーがあるとわかりやすくなります。参加者はそれぞれの活動にどんな心構えで参加すべきかがわかるからです。



人あつめ

参加してほしい人に声をかける

どんな人に集まってほしいかを明確にしたら、その人たちに声を掛けます。方法はさまざまで、直接一人ひとりお願いする場合もあるでしょうし、広報誌やWebページで不特定多数に発信することもあるでしょう。イベント規模や対象属性によって効果的なアプローチのデザインが必要です。また、イベントはオンラインを活用したり、既存の会合に合わせて実施することも考えられます。



実践体制をどのように構築するか



誰が必要？ 人脈やネットワーク

学び合いの場を作るにあたっては、参加者にとって新たな知識や知見のインプットがかかせません。そうした情報をもっている専門的な人、情報を伝えることに秀でた人などがが必要です。また、話し合いをうまく作り出せるファシリテーター、全体を効果的にまとめるコーディネーター、有効なコンテンツのデザイナーなど、必要に応じてお願いできる「つて」があると企画が広がります。



どんなものが必要？ 特徴ある開催場所やツール

まず参加者に集まってもらうための「場所」が必要です。大勢の人が集まるなら会議室や講堂など、広めの会場を準備しなければなりません。プロジェクターやパソコン、マイクなどの音響設備、机や椅子などの什器に加えて、ワークショップやゲームの道具類も準備する必要があるかもしれません。野外では衣類や作業・観察道具の他、安全にも心配りが必要です。お昼をまたぐようなら昼食も考えておきましょう。



どんなことが関係？ 効果・情報発信・つて

そのイベントは、なぜ、その時期に、その場所で、そのテーマで開催するのか、ということも考えておきましょう。他のイベント、町内の集まり、役所や学校の動きなど、関係している「こと」があるかもしれません。そうした「つて」をたどれば「人」、「もの」、「金」を融通してもらえるかもしれません。



いくら必要？ 開催資金

人件費、消耗品、印刷費、広報費、講師謝金、交通費などのコストをまかなう方法が欠かせません。公的な予算や助成をいかに活用するかが大切です。そのためには十分な説明を権限者に行う必要があります。また企業への依頼も考えられます。「企業がやっているSDGsをお手伝いします」という説明のしかたもあるかもしれません。



学びの場づくりには、「人」、「もの」、「こと」、「金」が必要です。いずれも「協働」のノウハウです。

学び合いの場づくり 企画ワークシート

必要な「人」「もの」「こと」「金」を想定しながら、イベント企画のアイデアをメモしてみよう。

企画を考える！

学びの目標

何のために開くのか、どんな持ち帰りをしてもらおうのか、イメージしよう
イベントを開くこと自体は、目標ではありません。

想定される参加者

だれに来てほしいのか、持ち帰った先も考えてイメージしよう。

テーマ

目的や分野を素すキーワードをテーマに使うみよう。
キャッチーで短いタイトルを考えよう。
サブタイトルも活用しよう。

●企画内容

●必要なもの

日時・場所

どんな時期がよいか、週末か平日か。場所のイメージは。

- **もの** 場所は室内か、室外か。広さの規模もイメージしよう。
- **こと** 他のイベントとの連携、時期やタイミングも考えよう。
- **金** 会場費のこと。頭の隅に置いておこう。

プログラム(人さがし)

どんな分野のどんな内容で行うか、具体的な内容を考えよう。
○講演?
○話題提供?
○ディスカッション?
○ワークショップ?
組み合わせも重要。
併せて登壇者もイメージしよう。

- **人** 誰にお願いすればよいか。登壇者の人選から企画が始まることもある。
- **こと** 時間枠や全体の流れをイメージしてみよう。
- **もの** しつらえやワークショップの道具もアイデアがあれば考えておこう。
- **金** 登壇者が遠方の方だったり、有名人だったりだとするとお金がかかる。ある程度考えておこう。

主催と協力者(共催・後援)

単独で開催するのか、協働して行うのか、協力者はあるのかなどを考えておこう。

- **人** 協力してもらえる組織はどこか? 誰か相談できる人はいるか? 思いついたらメモ。
- **金** ただでは協力してもらえないこともある。

人あつめ(参加者)

どんな方法で参加者を募るか、イメージをもとう。

- **人** 学校や町内会など、募集であてになる組織はあるか。
- **こと** チラシを作ったり、Webに載せたりと、方法もいろいろ。
- **金** メディアにうまく取材してもらえばお金もかからない。

企画を考えて実践した事例！

事例1 海岸ごみからSDGsを考える

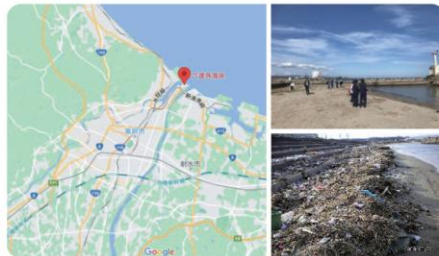
中部地方ESD活動支援センター主催
中部2021年度SDGs社会教育～実践セミナー

STEP 1 企画をする！

▼目標・テーマなど	学びの目標 海岸ごみの体験からSDGs時代の担い手としてできることを考える。	テーマ ローカルSDGs気づきから担い手づくりへ～海ごみをまると考える。
	想定される参加者 地域の若者、流域に位置する企業関係者	
▼企画内容と必要なもの	日時・場所 秋の土曜日、六渡寺海岸	ものごと金 海岸ごみ清掃を体験する、地元の活動と連携を検討し地域の公民館は使えないか。
	プログラム(人さがい) 午前中は海岸でごみ清掃と分別、午後はそれらのごみについての解説とSDGsワークショップ	人 海岸ごみの専門家に話をしてもらう(地元大学についてあり)SDGs担い手の意味について解説していただく識者を東京から呼びたい。 もの SDGsワークショップで円形シートを使うと良いかもしれない。中心に選んだごみを置き、縁に貼ったSDGsタイレとつないで議論するなど。 金 東京から演者を呼ぶ場合は旅費等を算入すること。
	主催と協力者(共催・後援) 地元活動団体に協力を依頼	ものごと 地域ESD拠点に登録している「PECとやま」に協力を依頼、地元のネットワークを頼る。
	人あつめ(参加者) 地元活動団体に協力を依頼	人 地域ESD拠点に登録しているPECとやまに協力を依頼。 金 地元の新聞社に主催してもらうことを検討。

STEP 2 実践してみた！

- **テーマ**：海岸プラごみ清掃から流域のローカルSDGsの担い手づくりへ
- **日 時**：2021年10月30日(土)11:00～16:30
- **プログラム**
11:00～ 現地視察(オンライン中継)
六渡寺海岸(富山県射水市)にて視察体験
- **活動**：徒歩で六渡寺海岸へ、視察、ごみ拾い体験
- 13:30～ **ワークショップ(オンライン併用)**
- **はじめに**…本セミナーの内容について説明
- **インプット**
プラスチックの功罪、海ごみからのSDGsと市民意識 楠井 隆史(富山大学名誉教授)
現地視察の振り返り、海岸のごみ清掃活動について 境 信賢(六渡寺自治会長)
- **グループワークショップ**
六渡寺海岸のプラごみ問題、どのようにつながっている? コーディネーター 原 理史(中部地方ESD活動支援センター)
- **総括コメント**
実践活動の学びを持続可能な社会に活かす地球市民 佐藤 真久(東京都市大学教授)



<https://www.pref.toyama.jp/1706/kurashi/kankyoushizen/kankyou/mizuhozen/2mamorou/group/23.html>

当日はお天気にも恵まれ、高校生や地元企業の職員も参加して海岸ごみを拾いました。肥料の散布用プラスチックカプセルの粒がたくさん打ち上げられていたのは驚きでした。

ワークショップもいろいろな議論ができ、オンラインでは海外からの参加もありました。佐藤先生からも素晴らしい総括をいただきました。

ワークショップでプラごみの問題を関連付け

事例2 食から気候変動を考える

中部地方ESD活動支援センター主催
2023年度SDGs社会教育～実践セミナー

STEP 1 企画をする！

▼目標・テーマなど	学びの目標 気候危機適応を身近な食の観点からSDGsの取組につなげる意識を養う。	テーマ (仮)ワークショップ「食」から学ぶ気候危機適応とSDGs地域づくり
	想定される参加者 サステナ政策塾(中部ESD拠点協議会主催の研修コース)の塾生を含む一般市民	
▼企画内容と必要なもの	日時・場所 2023年11月25日(土)伊勢湾、三河湾流域沿岸など	ものごと金 食と気候変動と言えば海産物、漁協さんに協力いただくことはできないか。会場は海岸近くの公民館などが考えられる。
	プログラム(人さがい) ・講演によるインプット ・現地視察 ・気候変動 ミステリーワークショップ	人 地元の漁協さん、愛知県の水産試験場、東海農政局に頼めないか。当てにしている気候変動適応の専門家は国際会議に行っているかもしれない、オンライン登壇を頼めるか。 こと金 昼ご飯は海苔など現地食材でみんなで作ったかどうか。実費徴収が必要。 こと人 ワークショップは専門家の助言をもとにカード作成が必要。
	主催と協力者(共催・後援) 地元活動団体に協力を依頼	こと 2団体共催で、講演とワークショップは中部地方ESD活動支援センター、視察と塾生募集はサステナ政策塾で。
	人あつめ(参加者)	こと人 サステナ政策塾の塾生、他、WebやSNSで広報、付き合いのある地元の高校や大学を通じて声かけ。

STEP 2 実践してみた！

- **テーマ**：食べ物が変わる?! 気候変動と私たちの暮らし
- **日 時**：2023年11月25日(土)10:00～16:00
- **場 所**：愛知県常滑市鬼崎漁港、鬼崎漁業協同組合会議室
- **参加方法**：現地参加30名定員、オンライン(午前的み)
- **費用**：参加無料 ※現地参加者の昼食は実費負担
- **プログラム**
10:00～ **1. 話題提供「食の変化と気候変動」**
●「森里川海からとれる食、気候変動でどう変わる?」 井上 俊樹(農林水産省東海農政局企画調整室長)
●「伊勢湾三河湾の水産資源の移り変わり」 植村 宗彦(愛知県水産試験場漁業生産研究所主任研究員)
●「農林水産業の現場から、鬼崎漁業組合」 平野 正樹(鬼崎漁業協同組合 参事)
●「気候変動影響と適応対策」 杉山 範子(東海学園大学教授) ※オンラインの予定が現地参加に
12:00～ **2. 昼食と現地視察—海苔養殖関連施設等の見学、昼食—**
コーディネーター 古澤 礼太(中部ESD拠点・サステナ政策塾)
14:00～ **3. ワークショップ「食」から学ぶ気候変動適応のSDGs地域づくり**
総合ファシリテーター 古澤 礼太(中部ESD拠点・サステナ政策塾)



サステナ政策塾の塾生や温暖化防止活動推進員、NPOの関係者なども参加して、充実した学びの場となりました。午前中の講演、昼食と視察、ワークショップにも熱心に参加いただき、俯瞰的に関連付けて考える「システム思考」の向上に役立つ場となりました。

昼食は地元海産物の鯛と海苔のおにぎりをみんなで作り、とても楽しい食事会となりました。カニが美味しかったです!

SDGsに向けてどんな人が必要なのか

ESDの学習目標 ユネスコ8つのキーコンピテンシー

キーコンピテンシー	内容
①システム思考コンピテンシー	複雑な関係をまるごと見る
②予測的コンピテンシー	様々な未来を考える
③規範的コンピテンシー	規範に基づき行動する
④方略的コンピテンシー	戦略的に計画を立てる
⑤協働コンピテンシー	互いを尊重して協力する
⑥クリティカル(批判的)思考コンピテンシー	鵜呑みにしないで考える
⑦自己認識コンピテンシー	自らを知り動く
⑧統合された問題解決コンピテンシー	全体を見渡し解決を探る

この中から一つでも二つでも大事なことと思ってもらうことが大きな学習成果となります。

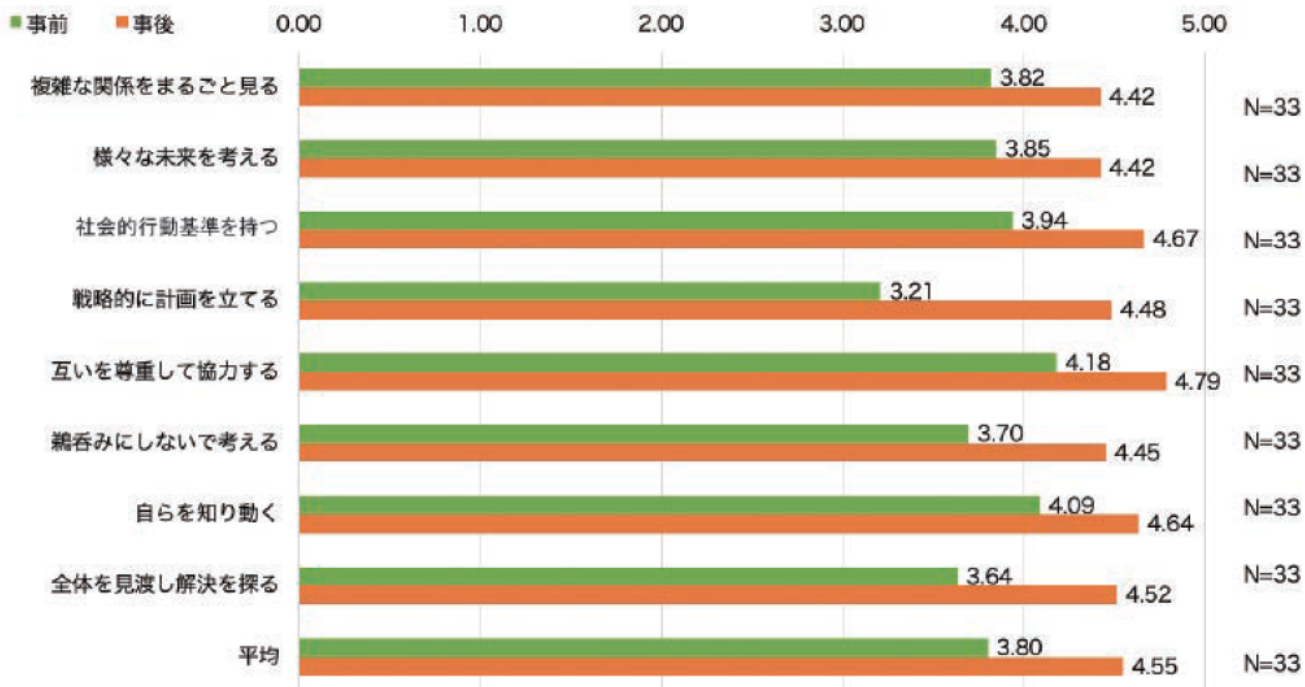
●学習効果を測定した例(2022年度学生サミット)

オンライン交流会の事前と事後でアンケートを取り、5段階で点数化した平均値を比較しました。それぞれアンケートフォームを用いて回答してもらっています。

事前の回答に比べて事後の回答の点数がすべての項目で高くなっており、「これからはそう考えていこう」という意向が形成されたことがわかります。交流会によってSDGs時代を担う人づくりの上での学習効果が現れたと考えられます。

5件法平均値

事前(これまでの態度)
事後(今後の意向)



出典:田開寛太郎・伊藤恭彦・原理史・清本三郎・富田夏子・福井弘道・杉田暁・古澤礼太・平川翼・川村真也(2023):ローカルSDGs指標に基づく施策議論プログラムのESD活用研究、「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」2022年度成果報告,文部科学省共同利用共同研究拠点中部大学中部高等学術研究所国際GISセンターに加筆修正

【ディスカッション1】 SDGs学習も考慮したテーマの設定

【ディスカッション1】ではグループごとに企画する「学び合いの場」のテーマをSDGsも考慮して決めます。普段からやりたいと思っているテーマがよいでしょう。

企画づくりテーマ設定方法の例

(地域地球温暖化防止活動推進センターや推進員の場合)

5つの分野から企画を考えたい分野を選び、グループごとに決めます。その分野におけるテーマを考えます。

【分野】

1. 食を巡るつながりから気候変動を考える【食】
2. 人の移動（交通）から気候変動を考える【交通】
3. 家のづくりや生活から気候変動を考える【家庭】
4. 流域地形と自然災害から気候変動を考える【防災】
5. 自然環境への影響から気候変動を考える【自然】

その他

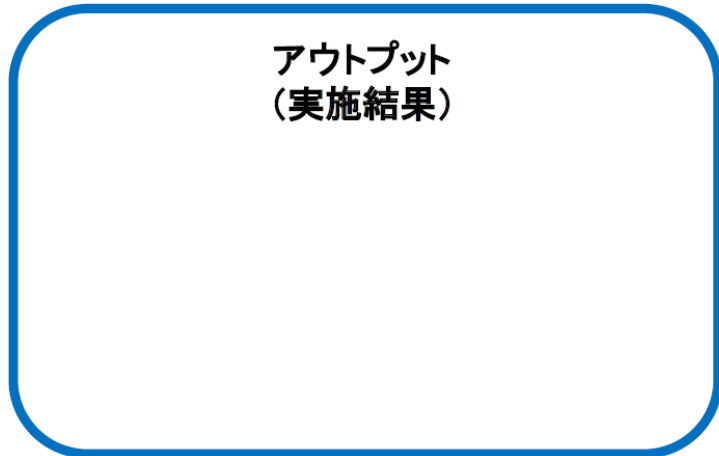
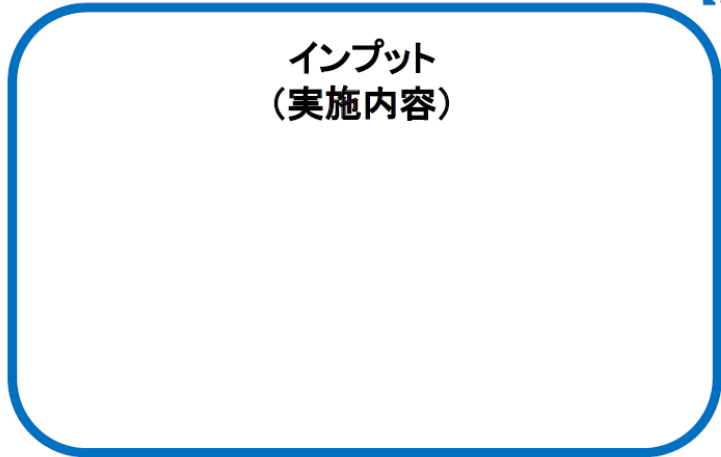
【テーマの例】

1. 食品ロスを抑えるためにできること
2. 公共交通を使おう！ワークショップ
3. ZEHの良さを知って住み替えを考えよう
4. 気候変動は地域の豪雨被害の原因か
5. 外来種が多くなっているのは気候変動の影響か

そのテーマの目標は？SDGsとの関係性は？

企画する「学び合いの場」のアウトプットはなんでしょう。そしてアウトカムやインパクトはなんでしょう。学び合いの場の成果を「アウトプット」、参加者の変容を「アウトカム」、地域・社会への貢献を「インパクト」とするとともに、SDGsも考慮してテーマを検討しましょう。

【変化の理論 Theory of Change】



アウトカム
(学び合った人たちの変容)



インパクト
(地域・社会の変容)



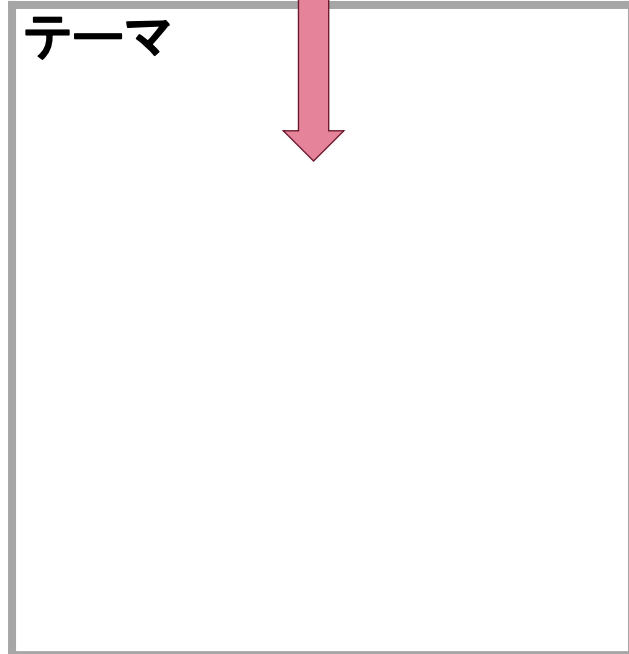
テーマ設定の時に使えるワークシートの例

<p>企画を考えたい分野を選ぶ (あとで変わっても構わない)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食を巡るつながりから気候変動を考える【食】 2. 人の移動(交通)から気候変動を考える【交通】 3. 家のつくりや生活から気候変動を考える【家庭】 4. 流域地形と自然災害から気候変動を考える【防災】 5. 自然環境への影響から気候変動を考える【自然】 <p>その他</p>	
<p>テーマを検討する (あとで変わっても構わない)</p>		
<p>目標とする成果 (アウトプット)</p>		<p>貢献するSDGs ↓</p>
<p>参加者の変容のねらい (アウトカム)</p>		
<p>社会への貢献のねらい (インパクト)</p>		

企画ワークシート用紙にテーマと目標を記入していきましょう

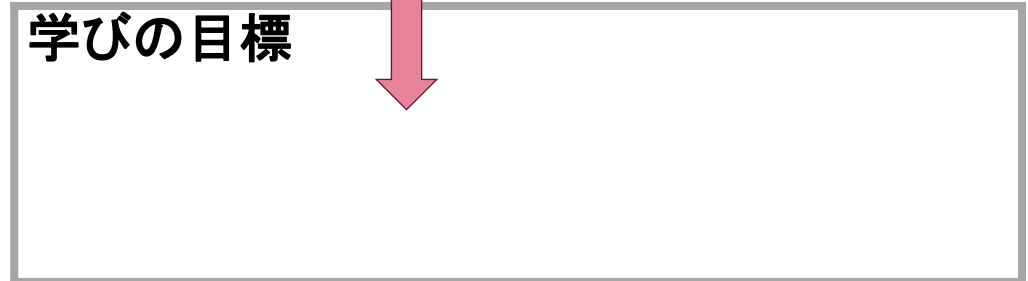
目的や分野を表すキーワードをテーマに使ってみよう。キャッチーで短いタイトルを考えよう。サブタイトルも活用しよう。

テーマ

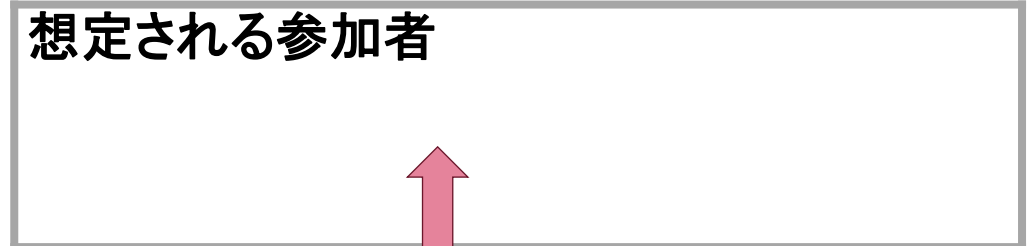


何のために開くのか、どんな持ち帰りをしてもらうのか、イメージしよう。イベントを開くこと自体は、目標ではありません。

学びの目標



想定される参加者



だれに来てほしいのか、持ち帰った先も考えてイメージしよう。

【ディスカッション2】 学び合いの場の形式検討

セミナーなのかワークショップなのか、どのように
形式で「学び合いの場」を作るのか検討します

学び合いの場の形式検討

学び合いの場で行う方法の大枠を考えます。

単独でも、組み合わせても

- ・ 講演
- ・ ワークショップ
- ・ 野外体験・視察
- ・ パネルディスカッション
- ・ フロアディスカッション
- ・ 座談
- ・ ブース展示

その他いろいろ



学び合い形式
考えられる形
式にできるだ
け☑

講演 発表会 パネルディスカッション グループディスカッション
ゲーム 試食 グループワーク 個人ワーク 視察・観察会 屋外
ワーク 展示・ブース
その他()

【ワーク1】 学び合いの場の企画づくり

グループごとに話合って実際の企画を考えていきます。その内容を用紙に貼ったり、記入します

企画ワークシート用紙に内容を添付したり記入していきましょう①

日時・場所、プログラム

●企画内容 日時・場所	●必要なもの、考慮すべきこと もの) こと) 金) など
プログラム	人) こと) もの) 金) など

どんな時期がよいか、週末か平日か。場所のイメージは。

もの) 場所は室内か、室外か。広さの規模もイメージしよう。
こと) 他のイベントとの連携、時期やタイミングも考えよう。
金) 会場費のことも頭の隅に置いておこう。

どんな分野のどんな内容で行うか、具体的な内容を考えよう。

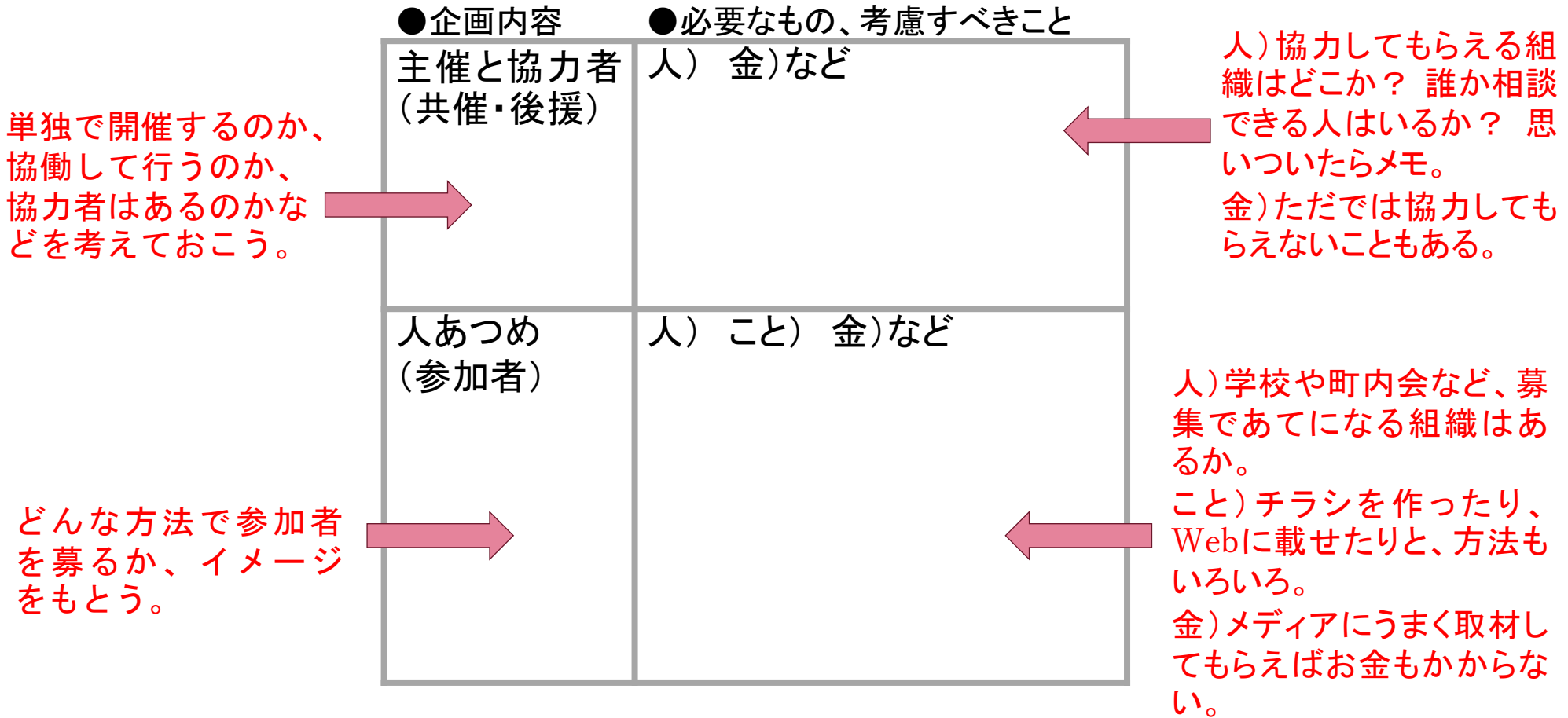
- 講演?
- 話題提供?
- ディスカッション?
- ワークショップ?

人) 誰にお願いすればよいか。登壇者の人選から企画が始まることもある。
こと) 時間枠や全体の流れをイメージしてみよう。
もの) しつらえやワークショップの道具もアイデアがあれば考えておこう。
金) 登壇者が遠方の方だったり、有名人だったりだとするとお金がかかる。ある程度考えておこう。

組み合わせも重要。
併せて登壇者もイメージしよう。

企画ワークシート用紙に内容を添付したり記入していきましょう②

主催と協力者の確認、どうやって人集めをするか



記入、添付するとこんな感じ

学び合いの場づくり 企画ワークシート(記入用) B

必要な「人」「もの」「こと」「金」を想定しながら、イベント企画のアイデアをメモしてみよう。

学びの目標
 坂井市のゴミの減量化について考え、SDGsの担い手としてできることを考える。3つの運動

想定される参加者
 小学生の 親子

テーマ
 環境面での持続可能なまちになるためのライフスタイルについて話し合う場

●企画内容	●必要なもの
日時・場所 6月1日(理髪月) 清掃センター	もの(こと) 金) ゴミの分別袋、ゴミの処理費、生活のゴミ、市内のゴミステーションの連携 金 ¥0 (持ち寄り)
プログラム(人さしがし) ① 学びの理由 ② 家庭での実践 ③ 存在を知らせる ④ 親子での実践 ⑤ 理由を員工演説 ⑥ 市民の意見 ⑦ 各家庭での実践 ⑧ 新設学校の紹介	人(こと) 金) ④ 清掃センター職員 ⑤ アスナビ NPO (町内会) ⑥ 水切りパイプ ⑦ 水切りの豆知識 ⑧ 水切りパイプ作成教室 (町内会) ⑨ 水切りパイプ ⑩ 水切りパイプ ⑪ 水切りパイプ ⑫ 水切りパイプ
主催と協力者(共催・後援) 坂井市 清掃センター	人(金) 坂井市 職員 ④ アスナビ NPO ⑤ 出費1000円 ⑥ 金 ¥0 ⑦ 新聞
人あつめ(参加者) Web 広報 TV 新聞 SNS	人(こと) 金) ④ アスナビ NPO ⑤ SDGs (X.イン) ⑥ 各学校にチラシ配布 ⑦ 新聞

学び合いの場づくり 企画ワークシート(記入用) H

必要な「人」「もの」「こと」「金」を想定しながら、イベント企画のアイデアをメモしてみよう。

学びの目標
 子どもたちと地元企業と連携して行う体験活動から将来のふじと地元と担っていく人材として育てることを考える

想定される参加者
 中学生 企業 高校生 市民 町内会 市役所 大学関係 地域住民

テーマ
 子どもや若者が地元愛やふるさと意識、well-beingを突発するまちづくりについて話し合う場

●企画内容	●必要なもの
日時・場所 10月・11月 倉江 小中公民館	もの(こと) 金) 会場費、バス代 減免
プログラム(人さしがし) AM 企業側から中学生へのワークショップ(体験) ① 地元企業を知りたい。 ② PM 中学生視点での学びの場について提案。 ③ 地元企業と連携して学ぶ。	人(こと) 金) 中学生、企業、光成華氏 ④ 体験代(企業負担?) ⑤ 中学生視点 ⑥ 企業側視点 ① 働くとはどういうことか ② 地元企業を知りたい ③ まちづくりに参加してほしい ④ 中学生は地元企業風土 ⑤ 地元企業と連携して学ぶ
主催と協力者(共催・後援) 〇〇 中学校 生徒 坂井市教育委員会 後援 市役所・企業 (協) 主催	人(金) ① 〇〇 中学校 ② 生徒 ③ 坂井市教育委員会 ④ 後援 ⑤ 市役所・企業 (協) ⑥ 主催
人あつめ(参加者) Web 広報 TV 新聞 SNS	人(こと) 金) 市役所・企業への依頼 (SDGの活用)

(注：旧バージョンの用紙で作っています)

【ワーク2】 企画した学び合いの場についての SDGsチェック

記入した企画がSDGsの学びに貢献するかを
チェックします

確認しよう！考えた企画はSDGsとどのように関連しているか

1. 中央に企画内容を記入
2. どのSDGsとどんな関連があるかを線で結んで記入
3. 書いた内容を共有してお互いに修正

EPO 中部/中部地方 ESD 活動支援センター提供
SDGs 17 ゴール・ワーキング用シート

テーマ：

内容 (取組など)

1 貧困をなくそう
2 質の高い雇用を創出
3 健康と長寿を促す
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に
7 持続可能なエネルギー
8 豊かさをみんなに実感
9 持続可能な産業を創出
10 人や国を超えて公正で包摂的な成長を
11 持続可能な都市とコミュニティを創出
12 持続可能な消費と生産
13 気候変動に具体的な対策を
14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさも守ろう
16 公正で包摂的な社会を
17 パートナーシップで目標を達成しよう

【ワーク3】 企画のブラッシュアップ

考えた企画でいいかどうかを検討します。別人になりすますと忌憚のない議論ができます。

例) ペルソナワークショップ

選んだペルソナになりきって企画を見直す！

①企画者、②企画者の上司、③財政担当、④一般市民

選んだペルソナになりきって以下の手順で企画を見直す！

例) ①企画者、②上司、③財政担当、④一般市民

1. シート記入内容のうち、「見直した時の課題点」をグループ内で共有
2. 「企画の課題を解決するには」のメモなども元に議論
3. 企画内容を修正、ブラッシュアップ

ペルソナワークショップ用ワークシートの例

ペルソナ概要	(○をつける) ①企画者、②上司、③財政担当、④一般市民
名前(仮名)	
どんな視点でクリティカルに見るか	
見直した時の課題点	
課題を解決するには	

【プレゼン】 議論した内容を発表

議論の内容を共有しましょう
それぞれの発表は簡潔に
時間を区切って余所のグループを見て回る
方法もあります